

ポスター | 1-11 心不全・心移植

ポスター

心不全③

座長:山村 健一郎(九州大学病院)

Sat. Jul 18, 2015 10:50 AM - 11:20 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-050~III-P-054

所属正式名称: 山村健一郎(九州大学病院 小児科)

[III-P-051]小児重症心不全に対する左心補助治療の検討

○上松 耕太, 西中 智博, 長嶋 光樹, 平松 健司, 大倉 正寛, 島田 勝利, 前田 拓也, 飯島 正樹, 山崎 健二(東京女子医科大学)

Keywords:重症心不全, 左心補助治療, 左心補助装置

(背景、目的) 本邦における小児重症心不全に対する VAD(ventricular assistant device)治療は成人と比較して一般的といい難い。当院にて施行した小児重症心不全に対する VAD治療の術前術後経過を検討した。(方法、症例) 当院にて2004年4月から2014年12月までに心不全に対する左心補助を行った7例(男:女=5:2,平均年齢11歳)を対象とし、疾患の内訳は拡張型心筋症6例、修正大血管転移症に対する修復術後の心機能障害1例であった。左心補助装置は、TOYOBO-NIPRO 5例、Rotaflo 1例、Rotafloから TOYOBO-NIPROへ変換した症例が1例であった。(結果) 診断から左心補助までの平均期間は529日であり、平均補助期間は100日であった。4例が海外にて心移植を受け、2例を頭蓋内出血で失い、1例は現在米国にて心臓移植待機中である。(結語) 小児重症心不全治療の現状において、適切な左心補助のタイミングと補助装置移植後のマネージメントが必要不可欠であると考えられた。また、将来的な小児に対する適切なデバイスの開発が期待される。